

ぐんぐん伸びる！



ピアノ レッスンノート

活 用 術

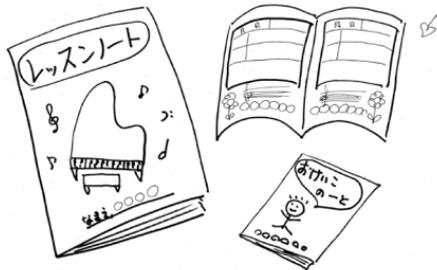
ますこしょうこ

はじめに

「レッスンノート」を使ってレッスンをおこなっているピアノ教師は、たくさんいらっしゃるでしょう。私も、教室を始めた当初から、ずっと使っています。はじめのうち、市販のレッスンノートを使っていました。どのノートも、かわいい絵柄がついていて、持っているだけでワクワクするようなものでした。

一般的に市販されているレッスンノートには、

- ・ 日にち・曜日
- ・ レッスン内容



・宿題

・ひと言連絡欄

・練習カレンダー

などが載っています。

私の教室でもはじめの頃は、いろいろな種類のレッス
ンノートを買って「どのノートが使いやすいかな？」と、
生徒たちといっしょに何種類も試してみました。

教室としての自由がきくように、なるべく中身はシン

プルなもの、さらにシンプルのなかにも子ども心をくすぐる配慮があるものがい
いと思っていました。あまり堅苦しくなく、かわいいキャラクターやシールなど
がついているものを選び、生徒たちもそれらのレッスンノートを喜んで使って
ていきました。



しかし、使っているうちに「帯に短し、襷に長し」……。目の前の生徒の成長や意識を考えれば考えるほど、「いや……もつとこの項目がほしい!」とか「この部分はなくてもいいかも……」と、思い始めました。使っているうちに、どうも、私の求めるレッスンノートとは微妙に方向性のズレがあることを感じ始めたのです。

どのような点にズレを感じたか? というところ……。どのレッスンノートも、「レッスンの記録」と「宿題」の2点だけに重点を置いて作られていたこと。そして、ほとんどのレッスンノートは、**教師が書いてあげる形式**になっていることです。

一般には、教師がレッスンノートにレッスン内容などを書いてあげています。そして、それで十分に生徒に伝



わった、と思い込んでしまいます。しかし……実際には、教師が書いてしまうと、生徒の記憶に残る効果はあまりないことに気が付きました。

私が求めているノートは、「生徒を育てる」ノートです。**「生徒自身が書き込み」、**このノートによって「さらに生徒が育っていくレッスンノート」がほしい！と日に日に感じるようになりました。そしてどうとう……「そうだ！ 自分の教室や生徒に合ったレッスンノートを作っちゃえ!!」と思い立ち、パソコンで原稿を打ち込み、コピー機で、セッセと作り始めたのが、ピアノ教室を始めて2年目のことでした。

この「オリジナルのレッスンノート」ができてからかれこれ13年くらいになります。途中で数回手直しを加えながら、「生徒自身が育つ」、まさしく、私の理想に近いレッスンノートが完成しつつあります。

自分でノートを作るようになる、今まで市販のものでは活用しきれなかった細かい部分までこだわりながら、気持ちを込めることができるようになります。そして、その時々々の生徒の状況や、学校生活、お稽古事情など、生徒を取り巻く環境の変化にも簡単に対応できるところがとても良かったと思っています。そのときに必要な内容でレッスンノートを作るわけですから、当然「**レッスンノート活用力!**」が断然変わってきました。

つまり……今までは、ただの「連絡ノート」の域に収まっていたレッスンノートが、生徒の自主性が育つための「**レッスンノート**」に変身! したのです。

具体的にはあとで説明しますが、生徒に「**主体性**」を持たせたことで、生徒の目の輝きが変わったことは間違いないです。生徒は「自分のレッスンという自覚」



をもって、このノートに自分の想いや疑問点などを自分の言葉で書き込むことで、教師に気持ちを伝えやすくなりました。このことは、今まで教師の言うことを「はいはい」と聞く**受け身だったレッスン**が、その方向性を逆転させるほどの効果がありました。

このように自分のピアノレッスンの目的に沿ったレッスンノートを作ること
で、レッスン自体がよりスムーズに運ぶようになったのです。たくさんのピアノ
教師の方に、ご自分のお教室で使いやすいレッスンノートを作られることをぜひ
オススメしたいな！ と思っています。

2013年11月 ますこしょうこ

目次

はじめに……………2

第1章

LESSONノートの効果!……………11

① LESSONノートってこんなにすごい……………12

② 生徒が変わった!……………21

③ 自分が変わった!……………38

④ 保護者が変わった!……………46

第2章

LESSONノートに必要なこと……………53

① そもそもLESSONノートって何?……………54

② ノートに何を入れ込むか?……………57

③ ノートを使うときの注意点……………64

第3章

まずこびあの教室の
オリジナル『れっすんのーと』……………69

① ひとりの1年をこのノートに……………70

② れっすんのーとの使い方……………71

3 前年の取り組みと、翌年に向けて…………… 73

4 1年後の自分と、未来の自分…………… 78

5 練習カレンダー…………… 85

6 コンサート目標カード…………… 87

7 毎週のページ…………… 92

8 1年を振り返って…………… 106

9 自分の「すてき！」を見つけよう…………… 108

第4章

自分でノートを作ってみよう…………… 111

1 自作レッスンノートのメリット…………… 112

2 準備するもの…………… 114

3 ノートの内容を考える…………… 116

4 デザインも大切！…………… 120

5 こんなアイデアも入れてみては？…………… 122

6 私のこだわり…………… 129

第5章

みなさんのレッスンノートを
拝見！…………… 133

1 練習回数を書いてやる気上げる…………… 134

(古内奈津子先生)

👑 さり気ない書き込みから様子がわかる…… 140

(藤田順子先生)

👑 コミュニケーションツールとしても活躍…… 145

(川畑順子先生)

おわりに…… 150

〔ふろく〕

LESSONノートに関するアンケート

1
166



第1章

レッスンの効果！



1 レッスンノートってこんなにすごい

「生きる力を育てるピアノレッスン」をポリシーのひとつにしている私は、このレッスンノートを生かさない手はない！ と思いました。

「生かすも、殺すも、使い方次第！」

レッスンノートを作りながら、項目ひとつひとつに命を吹き込んで作っているうちに、生徒たちの育っていく姿が想像できるようになってきました。

「この項目を入れると、生徒と、こんな会話が広がるな」

「この部分から、生徒の気持ちを引き出そう！」

「保護者の方とのつながりの部分はここで……」

「あくまでも、生徒自身のノートになるように……」

たった半ページの「毎レッスンの項目」でさえも、ひとつの無駄もないように、どの項目も輝かせるために……何回も何回も考えて作っていききました。入れ込みたい内容はたくさんあったのですが、それを厳選して、できるだけシンプルにすることも気をつけました。

せっかくオリジナルで作るノートです。毎回のレッスンの項目以外にも、「あらゆる角度から生徒の心をくすぐっていきこう！」と考えました。生徒自身が伸びていくために、いちばん大切なのは「今の自分を知る」ことだと気が付いたので、「今までの自分を振り返る」欄と「未来の自分をイメージする」欄も作りました。

将来に向けて「生きる力を育てる」ためには、人生設計も大切なことです。長い人生の中での、この瞬間を、ピアノレッスンを通して輝かせることができます、そのお手伝いができる「レッスンノート」を作りたいと思ったのでした。



作っていくうちに、まず、私自身がワクワクし始めました。

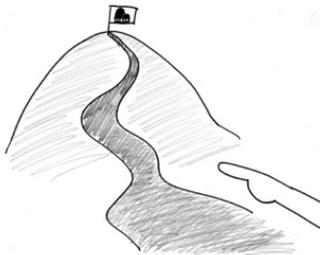
「このノート、1年後にはいったいどんなものが詰まっていくのかな？」

「生徒の足あとが、どんなふうに記録されていくのかな……？」

生徒を育てる仕事をしている私たちにとって、こんなふうに生徒の成長が目に見え、手に取れるノートは、今までに出会ったことはなくすごいノートだよ!! と、自分でニンマリしたのです。そして実際に使ってみると、すぐにかんりの効果があらわれたのです! これから、具体的にいくつか目立った成果を挙げてみます。

★目標設定ができるようになる

オリジナルのレッスンノートには、「1年の目標」「今月の目標」「今日の目標」などに区切り、細かく未来の目標や希望を書く欄を設けました。生徒にとっては、そこに「書

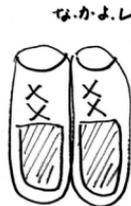


く」という行動をとるだけでも、1歩、理想に前進していることにつながっていきま

す。漠然とレッスンに挑むのではなく、自分の進む道が確認できるようになるので

★基本的な生活習慣が身に付く

毎日の練習の習慣が身に付くよう、「練習カレンダー」のページを入れました。また、「レッスンのお約束」という項目を設け、ここには人として基本的な約束ごとを載せました。毎回のレッスンで生徒に実践させることで、「挨拶をする」「手をきれいにしておく」「靴を揃える」「自分のレッスン、という自覚を持つ」など、基本的な生活習慣の大切さにも気付くようになりました。



★自分を客観的に見られるようになる

今自分は何ができて、何を苦手としているのか？ 自分の状態を客観的に理解できないと教師に質問することはできません。ですので、常に一步離れた視点から自分自身を、また自分の演奏を、客観的に見つめる習慣をつけていきたいと思っただけでした。

毎回、考えながら書き続けることで「今の自分の演奏はどうだったかな？」と、広い観点から客観的に自分を見ることができるようになりました。

★過去・現在・未来をイメージすることで、今の自分を認められるようになる

「1年後の自分」「未来の自分」のページは、はじめはどの生徒も、キョトン！とするページです。

今を生きるのに必死な彼らは、「1年後の自分から今の自分を振り返る」「未来の自分になったつもりで現在を考えてみる」、という視点で自分を見つめたことはなかったはず。

この項目を作ることで、自分の将来や未来を明確にイメージし、それに向けた取り組みをする準備が無意識のうちに生まれていくのです。

★小さな努力が実を結ぶことを知る

毎日練習したときにシールを貼る「れんしゅうカレンダー」は、「1日ひとつずつ貼ろうね。まとめて貼らないよ！」がお約束。コツコツと取り組む小さな行動によって1カ月、2カ月とたまっていくシールを見て、自分の前進が確認できるのです。「日々の努力こそ、力になる」ということを実感し始めました。



★毎日の生活がていねいになる

毎日の生活パターンに、ピアノに向かう時間をどこにとるか？ 小さい生徒にも考えて決めてもらいます。ひとつでも、生活の中でポイントとなる時間を決めると、ほかの時間の使い方もおのずと考えるようになりますね。自分で決める「規則正しさ」は気持ちが良いので、取り組み方も前向きでていねいになります。

★コミュニケーション力がつく

毎週書くページの中に、小さな「じぶん」という欄があります。そこには、生徒が教師に向けるメッセージを書き込んでいきます。良いことも、悪いことも、自分か



ら発信する言葉をしっかりと受けとめてくれる教師の存在がある安心感から、「コミュニケーションの力」が育つていきます。

★音楽のすばらしさに気付く

「曲分析カード」という、音楽を自分でより深く研究するページを設けました。自分で楽曲を調べてよく知り、手をかけて創り上げた音楽は、自分だけの宝物だということに気が付くでしょう。

また、毎週記入する「じぶん」の項目に、この曲と向き合ったときに発見したすばらしさや疑問点などを書くことで、教師といっしょに音楽を深めていくきっかけになります。



★フィードバックすることで次に進むことができる

「今週の目標」には、レッスン終了後、家で取り組むポイントを自分で書き込みます（小さな生徒は書いてあげて、口で確認します）。毎日の練習のときに、このノートを開いて練習をすることで、無駄がなくなります。さらに、前のページをめくることで、以前の確認も簡単にできますね。





生徒が変わった！

オリジナルのレッスンノートを作ってから、生徒も、私も、意識がずいぶん変わりました。ここでは、実際にどのように変わったのかをご紹介します。こうと思います。

変化は、まず生徒の内面や行動にあらわれました。オリジナルのレッスンノートが今までのレッスンノートと大きく違うことが、基本的には「自分で書き込む」という点です。自分で考え、自分の言葉で、自分の字で書き込むことが、「はいはい」と教師の言葉にうなずいていたときの何倍も何倍も身に付くことを、私も生徒自身もすぐに実感し始めました。

慣れるまでは時間がかかりますが、そこは大切に時間を取って、自分の頭で内容をまとめてわかりやすく書きとめていくように導いていくことも、教師の大切な仕事だと思っています。



はじめは書き方もわからず、教師の求めていることを書こうとしていた生徒たちも、次第に自分の言葉を見つけ始めます。つたない文章の中に、きつちりと自分の意志があらわれ始めます。それこそ、「自分のレッスン」のスタートです！

「変わった例 その1」

Sちゃんは、お母さんや先生の言うことは、いつもニコニコ「はい！」と聞いて取り組む良い子ですが、言われたこと以外は自分からはなかなかできません。こちらの指示や質問に対しても、**こちらが望む答えを考えて、ママの顔をうかがいながら答えていました。間違えるのが怖いタイプです。**

「Sちゃん、今日は何をやるの？」と聞くと、いつもニコニコとママの顔を見ます。すると、ママに「この曲、練習してきたでしょ」と言われて、そのあとに「……この曲、練習してきました」と答えます。

「どこか、難しかったところ、あった？」と聞くと、
またまたママの方を見ます。すると、またママが
「ここが、ちょっとうまくいかなかったみたいじゃ
ない？」と、答えます（…………あの…………私は、Sち
やんに聞いているのですが…………）。

そのあと小さな声で、「……………ここが難しかった……………」と言います。



行動面でも、自分からはなかなか動かないので、ついついお母さんが手を
貸してしまいます。たとえば、バックの中から楽譜を出すことですら、お母
さんがパツパとやってしまい、Sちゃんは、それをポーツと見ているだけと
いうこともよくありました。

「お、お母さん……………ちよつと待って……………これ、Sちゃん、自分でできます
から……………」

そう言われて、ハッと気付くお母さん。

「そ、そうですね……………いやだ〜私ったら」

ここではじめてお母さんもSちゃんも誰のためのレッスンのか気付くこともありました。

「Sちゃん……ゆっくりでもいいから、自分でできることは自分で考えてやろう……ねっ！」

「はいー」と返事をするお母さん（だから〜お母さんが答えるんじゃないかって〜）。

Sちゃんは、今まで、準備も片付けも質問の答えも、自分で考えなくてもお母さんが考えてやってくれていたのが、先生のひとりで、面倒くさいことになったぞ！ と、はじめは戸惑っていましたが、こちらが面倒くさがらずに、Sちゃんのペースで時間を取っていくうちに、自分の頭で考えて行動し、受け答えもきちんとできるようになりました。

そんなふうに、**自分の口で直接先生に伝えることがとても素敵**だということとを伝え続けていると、そのうちに、それがやらされているのではなく、ち

よっと気持ちの良いものだ！ と、本人が自覚してくるのです。

「言葉にできることをそのままレッスンノートに書けばいいんだ」ということがわかると、子どもは少しずつ書いてくるようになります。

だって、子どもたちは、本当は……

本当の自分を知ってほしいのですから。

認めてほしいのですから。

導いてほしいのですから。

当然、レッスンノートに書き込む「日付」「曜日」「体調」「今日のレッスン」「質問など」も自分で書くし、その項目について必ず話が広がっていくこともわかってきます。「今日学校であったこと」「この曲の困っていること」「私に伝えたいこと」など、ちゃんとダイレクトに会話が成り立つようになってきました。



私はカウンセリングレッスンをおこなっています（カウンセリングレッスンについては、前著『生徒がやめない！ピアノ教室』をご参照ください）。

いつも生徒が曲を弾く前には「この曲をどんなふうに弾きたいの？」「どこか難しかったところはある？」などと、生徒の気持ちを引き出してから、弾いてもらいます。そして弾き終えたときに必ず「どうだった？」と聞きます。

私は昔、生徒がピアノを演奏して、それを聴いた先生が「こことここが違ってあるよ」とか「この記号の意味はね……」と言って教えてくださるのを「はいはい」と聞いて帰るのがレッスンだと思っていました。極端に言えば、生徒は何も考えなくても、感じなくてもよくて、先生からのアドバイスを忠実にマスターすればよかったです。そんなイメージがありました。

しかし、本当は違うはずですよ。

レッスンとはいったい誰のレッスンでしょう??

ピアノレッスンとは本来、生徒本人がまっすぐにその曲と向き合い、自分の中で疑問点を見つめたり、感情を表現したりするものだと思います。生徒にとって、先生に評価していただいて、先生に○をつけてもらうためにピアノを弾いているのは悲しすぎます。

「自分はどうしたい」

「ここがどうしてもうまくいかない」

「この音を、もっと澄んだ音にするにはどうしたらいいの？」

それらをいっしょに解決に導くのが、教師の仕事ではないかと気が付いたので
す。

「変わった例 その2」

Mちゃんは、よその教室から移ってきた生徒さんでした。はじめは、私が「Mちゃん、今の演奏、どうだった？」と聞いてもポカン！ としていました。

当然、レッスンノートにも、疑問点などは書かれていません。そして、私が具体的に「この部分のクレッシェンドは思ったように弾けた？」とか「ここはどんな気持ちで弾くの？」などと、いろいろ質問しました。

そこでやっと、自分のピアノの音をじっくりとよく聴くことを覚え、自分の頭で考え始めたMちゃん。



「う〜んと……うまくクレッシェンドできない」

「じゃ、いっしょにやってみよう！　こんなふうに、自分で思ったようにできないところを家で見つけて、ここ（レッスンノート）に書いてきてみて！　そうしたらレッスンももつとスムーズにいきそうだよ（*^へ*）」

「うん！」

ここでMちゃんは、家での練習のときにも、問題意識をもって取り組むことを覚え始めたのでした。

家での練習で、どこがうまくいかなかったのか？

困っているところは何か？

これらを文章にあらわすことは、じつは簡単なことではありません。それでも、やり続けているうちに「どうしたら、先生にわかってもらえるか？」と考えるよ

うになり、音楽の細かいニュアンスも、言葉で伝えようと努力するようになりま
す。すると、実際の演奏でも、漠然としていたものが、具体性を帯びてきたので
す。これには本当に驚きました。

「変わった例 その3」

中学生のTちゃんは、ピアノが大好き。幼稚園の頃から通ってきていて、
いつもニコニコです。

私のアドバイスにも、「うん！ わかった〜」と言って、すんなりマスター
していくような生徒でした。ずっとカウンセリングレッスンでレッスンして
きているので、自分の困っているところもきちんと言えりし、レッスンノー
トに書いてくることもできます。

ところが、それだけでした。つまり、Tちゃんが見ていたのは自分の音楽

の世界だけだったのです。私は、それについて特別問題も感じませんでしたし、彼女の音楽が熟成されていくことがレッスンの目的だと思っていたので、毎週、楽しくレッスンしていました。

しかし、ある日、彼女の1歩先に進んだすばらしい成長ぶりに気が付いたのです。

「先生、あのね……昨日学校で友達がピアノを弾いたの。そしたら、音があまりにもガサツで、聴くのがつらかったの。バンバン！　って。何であんなピアノの音、出すんだらう??」

「先生……この前テレビで聴いたピアノ、すっごくきれいだった。音のしつぽが……スウ〜って消えていって、ぞくぞくしちゃった」

このようなことを言うのです。

それを聞いて「丁ちゃんは、自分のピアノの世界から、広い音楽の世界まで感じ取れるようになったのだ」と感動したのでした。

これは、ただ受け身だけのレッスンでは培われなかったものだと思います。毎回のこちらからの問いかけや、Ｔちゃんが自分で疑問点や質問事項を考え、発信し続けた成果だったのではないかと、感じています。

「変わった例 その4」

ある成人の生徒さんの例です。高校時代までピアノを習っていて、長年のブランクのあと、私のところに習いに来ました。

はじめは当然、先生の言うことを忠実にこなそう！ という姿勢で取り組んでいました。

レッスンに通い始めてすぐに、レッスンノートの使い方をお伝えしました。「ここには、家で取り組んでみたときの疑問点や私への質問や、レッスンでの

覚え書きなど書いてくださいね！」と言うと、即！ 活用し始めました。

私が予想した以上に、細かく細かく、欄には入りきらなほどの「彼女の声」が毎回レッスンノートの記されるようになりました。

問題意識を持ってレッスンに取り組むので、結果的に、納得度や吸収力には目を見張るものがあります！ 私が求めている「自分のレッスン」のひと役に、レッスンノートが生かされていることは間違いありません。

「変わった例 その5」

今度はご年配の生徒Yさんのことです。その方は、60歳を過ぎてから、ほかのピアノ教室で習い始め、諸事情をやめて、私の教室に来てくださるよう

になりました。遅いスタートでしたが、かなりの名曲にもチャレンジされて
いました。

これまでのレッスンは、先生が「こんな感じで弾きましよう」と言っ
たものを「真似」して弾く、というレッスンだったようです。名曲が弾け
る喜びは、きつと楽しかったでしょう。

しかしそのうち、先生と同じようには弾けないことに気が付きます。今
まで先生の言われたとおりに「はい」と言っ
て真似をすることがピアノのレ
スンだと思っ
ていらしたその方は、「質問をする」という方法を思いつかなか
ったようです。

「できないのは私が悪い。私に才能がない」

そして、先生も「どうして弾けないの？」と、真似ができなくなっ
たその
方に逆に問いかけてきたそうです。とうとう自信をなくしてやめられてしま
った。

その後、数年経って「どうしてももう一度ピアノが弾きたい！」と思っ
て、
私のところにいらしたのです。

「このレッスンノートに、ご自分の疑問点や弾いてみた感想など、自由に書いてくださいね」

はじめてのレッスンのときにレッスンノートをお渡ししました。すると、その方はキョトン！ として「……え？ 何を書けばいいんですか？」とかなり戸惑っていらっしやいました。

そうですね、やったことがないのだから当然です。

「先生がすべて教えてくれるのではないですか？」
こんな感じですよ。

「違うんですよ。この曲を演奏するのは、Yさんでしょ？ Yさんがイメージする音楽に近付けるように、私はお手伝いしますから。何でも遠慮なく書いてくださいね」

そうお話すると、はじめての先生の前で緊張していた表情がフワッと明るくなったことを、今でも覚えています。それでも、なかなか自分から言葉は出ません。なので、私から答えていたただきやすい投げかけを常に心がけ、レッスンをしました。



たとえば「この音型は……？　そうですね！　どんどん登っていますね。
〴〵。登るって何をイメージします？　山ですか？　坂道ですか？　それとも、
目線ですか？　^(*^_^*)、私のほうは常に笑顔を心がけます。

生徒さんが心を開いて自由になり、何でも言える状態にするには、私たち
教師の受け皿が、スポンジのような状態であることが大切です。生徒さんの
どのような言葉も受けとめてあげましょう。もしも、私が想像する答えと、
真逆のご意見が出てきても「そうですね^(*^_^*)」と受けとめていくことは、とて
も大切なことだと思えます。

そのうちに、Ｙさんがおっしゃいました。

「先生……今までこんなこと言われたことがありませんでした。自分で考え
たこともなかったです。いいんですか??　自分で考えても……」

「もちろんですよ〴〵何言っているんですか〴〵^(*^_^*)。Ｙさんのレッスンでし
よ?　何でも言ってくださいね!」

そのようなコミュニケーションが続いていくうちに、Ｙさんが少しずつレ

ツスンノートに書き始めるようになってきました。「この曲のリズムが難しいです」とか「今週は欠かさず練習しました」とか「この曲が大好きです」「今週は体調が悪くて練習していません」「柔らかい音の出し方を教えてください」などです。

□で言えば済むようなことでも、家でノートを開いて「今度先生に伝えよう。聞こう」と思いながら取り組んでいただけのようになり、Yさんにもようやく「自分のレッスン」と思っていただけだと、心から嬉しくなったのでした。

【著者プロフィール】

ますこしよこ



文教大学教育学部中等音楽卒業後、中学校教諭、特別支援学校教諭となる。出産を機に退職し、10年後、埼玉県草加市でピアノ教室を開く。

2013年現在では、2歳から77歳まで85人の生徒たちと『笑顔のレッスン』の日々を送っている。指導方針は「生きる力を育てるピアノ教育」と「音楽で幸せにする！なる！」。また、東日本大震災では、個人で「楽譜支援活動」をおこなっている。著書に『生徒がやめない！ ピアノ教室』がある。

ますこびあの教室

<http://www9.plala.or.jp/chocorin/>

ブログ『しよこ先生の日々』（毎日更新）

http://blog.livedoor.jp/chocorin_p/

ぐんぐん伸びる！

ピアノレッスンノート活用術

2014年1月10日 初版発行

著者 ますこしよこ

発行者 谷口恵治

発行者 株式会社ヤマミュージックメディア

〒171-0033 東京都豊島区高田3-19-10

電話 03-6894-0250

インターネット・ホームページ

<http://www.ymml.co.jp>

イラスト ますこしよこ

デザイン 村上佑佳

編集 片山淳

印刷・製本 シナノ印刷株式会社

造本には十分注意しておりますが、万一落丁・乱丁などの不良品がございましたらお取替えいたします。

本書の無断複写（コピー）は著作権法上の例外を除き、禁じられています。本書の定価はカバーに表示してあります。

ISBN978-4-636-89933-7 C0073

©2013 by SHOKO MASURE, YAMAHA MUSIC MEDIA CORPORATION

Printed in Japan

生きる力が育つ！ ますこしょうこの本



生徒がやめない！ ピアノ教室

ISBN978-4-636-89168-3

定価1600円（税別）

「街のピアノ教室」でここまでできる！ なぜやめないの？
スケジュールの組み方は？ コンサートはどうやって開く？
ワクワクさせるピアノレッスン室は、ちょっとした考え方から。
あなたの教室を生まれ変わらせる第一歩がここにあります。



ぐんぐん伸びる！ れっすんのーと

監修:ますこしょうこ

ISBN978-4-636-90153-5

定価480円（税別）

生徒さんの自主性を育てるレッスンの秘密は……？
アイデアがたくさんつまった、しょうこ先生の『れっすんのーと』。
『ぐんぐん伸びる！ピアノレッスンノート活用術』をご参考に、
『れっすんのーと』もご自分仕様でご活用ください！